

めがねのまちさばえ ゼロカーボンシティ宣言

近年、世界各地では地球温暖化の進行により、猛暑や豪雨など異常気象による災害が増加しており、我が国においても、全国各地で集中豪雨や台風の巨大化による甚大な被害が発生しています。鯖江市においても、生命や暮らしが脅かされる事態が身近に迫るなど、まさに気候危機というべき状況であり、その対策は不可欠なものとなっています。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されるとともに、2018年に公表されたIPCC(国連の気候変動に関する政府間パネル)の特別報告書では、この目標の達成には「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには、2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」と示されています。

豊かな自然に恵まれたふるさと鯖江は、私たちの祖先たちが王山古墳の昔から大切に守り育ててきたものであり、この自然の恵みを将来にわたって守り、安心して住み続けられる環境を次の世代に継承していかねばなりません。

鯖江市は国連が採択したSDGsを推進しており、令和元年度にはSDGs未来都市の選定を受けました。市民一人ひとりが実現を誓った「SDGsさばえ宣言」の中でも、100年後も住み続けたいと思えるまちであるために、経済・社会・環境の好循環が生まれる、誰一人取り残さない社会を目指すことを謳っています。

眼鏡・繊維・漆器といった世界と深く繋がりのある地場産業により発展してきた鯖江市にとり、世界の人々と志を同じくし、笑顔あふれる持続可能なまちを目指すことは私たちの使命でもあります。

これらを実現するため、鯖江市は2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を宣言し、市民、産業界、行政が協働して、その取組を推進してまいります。



令和3年5月20日

鯖江市長 佐々木 勝久